

※記載のページ番号は、決算説明会資料におけるページ番号を示しています。

○2025 年度第 2 四半期決算（P3）

- ・ 2025 年度の第 2 四半期決算は、都市交通事業やホテル事業を中心に、大阪・関西万博の開催に伴う需要を取り込んだことや、不動産事業においてマンション分譲戸数が前年同期を上回ったことに加えて、阪神タイガースがリーグ優勝を遂げるなどスポーツ事業が好調に推移したこと、旅行事業において海外旅行の取扱が増加したこと等により、前年同期に比べて増収・増益となった。

○2025 年度通期業績予想（P4）

- ・ 2025 年度の通期業績予想は、不動産事業における短期回収型の物件の売却時期の見直し等により、営業収益は 7 月に発表した予想を据え置いているものの、利益面では、阪神タイガースがリーグ優勝を遂げたスポーツ事業をはじめ、多くの事業が極めて堅調に推移していることもあり、7 月時点の予想から増益を見込み、事業利益を 1,290 億円に上方修正した。

○2025 年度通期業績に関わる特殊要因（P5）

- ・ 2025 年度の業績に関わる特殊要因が大きく二つある。

<大阪・関西万博>

- ・ 一つ目は、大阪・関西万博の影響である。万博会場は当社の鉄道沿線ではなかったが、万博を訪れる方はもちろんのこと、万博をきっかけに関西全体の人の動きが活発となり、当社グループの業績にも好影響をもたらした。
- ・ 具体的には、鉄道事業や、主要駅・施設と万博会場間で輸送を担った自動車（バス）事業、ADR が上昇したホテル事業、万博会場への輸送支援業務を受注した旅行事業などであるが、これらを含めたグループ全体において、第 2 四半期までで 50 億円程度の増益効果があったと考えている。
- ・ また、万博をきっかけに、沿線にお住まいの、特にコロナ禍以降外出を控えておられたご高齢の方などが「お出かけの楽しさ」を思い出していただいたように思う。「皆さんのマインドを切り替えた」という点でも、万博開催の意義は非常に大きい。
- ・ なお、万博終了後の足元の状況について申し上げますと、鉄道は、阪急線・阪神線の定期外収入が万博開催期間中と比べると一定程度減収となっているものの、概ね今回発表した予想どおりの水準で推移している。また、ホテルは、閉幕直前の 10 月上旬に、国慶節等によるインバウンドの需要も重なった反動で、万博終了直後は大阪エリアにおいて稼働率・ADR が 10 月上旬に比べれば少し低下しているが、引き続き高い稼働率・ADR を維持しており、ホテル事業全体の業績は、今回発表した予想どおりに推移している。
- ・ 当社グループとしても、大阪・関西万博を一過性のイベントにするのではなく、これからも人々が関西を繰り返し訪問したいと感じていただける仕組みづくりを行い、引き続き関西に多くの方にお越しいただけるよう努めていきたい。

<阪神タイガースのリーグ優勝>

- ・ 二つ目は、阪神タイガースのリーグ優勝である。多くの皆様のご声援を受けて、9 月に JERA セントラル・リーグ 2025 で 2 年振りとなる優勝を果たすことができた。
- ・ 残念ながら日本一には届かなかったが、さらなる高みを目指し、来シーズンもチーム一丸となってペナントレースを戦っていく。
- ・ 併せて、さらなるファンの獲得・定着に努めるとともに、3 月に開業した新ファーム施設「ゼロカーボンベースボールパーク」を活用し、選手の育成を通じた強いチームづくりを行い、ベースボール事業の一層の成長を図っていく。
- ・ なお、優勝による具体的な効果の詳細はご容赦いただきたいが、今回の通期業績予想では、スポーツ事業の営業利益を上方修正しており、その中にはリーグ優勝や日本シリーズ進出による効果が含まれているとご理解いただきたい。

○長期経営構想に関する取組の進捗状況（P6～P7）

- ・ 長期経営構想の発表後のトピックを申し上げる。

<東阪急ビル建替計画>

- ・ 1966年に竣工した東阪急ビルを老朽化に伴い解体し、新たに地上10階・地下1階建てのオフィスビルを建築する。
- ・ この場所は、阪急大阪梅田駅のほか、大阪梅田エリアの各駅からアクセスしやすく、周辺には「HEP FIVE」や「HEP NAVIO」をはじめ多くの商業施設や飲食店等が集積している。このビルの1階にも店舗を置き、大阪梅田エリア全体の回遊性と賑わいの一層の創出に寄与する。

<THE SUMO LIVE RESTAURANT 日楽座 GINZA TOKYO>

- ・ 「日楽座」は、インバウンドをメインターゲットに日本文化の新たな楽しみ方を発信するエンタテインメントブランドであるが、2024年5月に、大阪の難波において、同ブランドを冠した相撲エンタテインメントショーホール「THE SUMO HALL 日楽座 OSAKA」を開業し、多くのインバウンドのお客様にご来場いただいている。
- ・ 2026年1月には、東京・銀座に2号店「THE SUMO LIVE RESTAURANT 日楽座 GINZA TOKYO」を開業する。これらの施設を通じて、日本が誇る相撲と和食の魅力を、東京から世界へと力強く発信していく。

<当社グループのガバナンス体制の再構築>

- ・ 長期経営構想の公表時にもご説明したとおり、当社グループでは、各事業の業容が拡大するとともに、専門性も高度化しており、こうした中で経営の透明性を確保しながら事業を効果的に運営していくため、より現場に近い事業会社において、社外出身の取締役・監査役を選任することとした。
- ・ 具体的には、2025年6月に、主要な中核会社において、社外出身の取締役・監査役を選任し、新たな体制で取締役会をスタートさせるとともに、7月には、宝塚歌劇団の改革の実効性をさらに高めるべく、宝塚歌劇団を株式会社化した。
- ・ こうしたグループのガバナンス体制の強化を前提に、事業会社への権限移譲を進め、事業戦略の推進スピードをさらに加速させたい。

以 上